

2020. 6. 9

畑 啓之

米国ナスダック（技術中心銘柄）が急上昇 これは期待か、バブルか？

米国はまだコロナ禍や一部暴動の中にいる。その中に光る光明が、ここしばらくの株価の戻りである。技術銘柄を中心に扱っているナスダックの上昇は特に象徴的である。

パンドラの箱が中国で開かれ、多くの災いとその箱より飛び出した。全世界はまだその苦しみの中にいる。パンドラ伝説では、箱の中より飛び出てきたのは災いばかりで良いものはなにも飛び出しては来なかった。そこで、これはいけないと慌てて箱に蓋を閉めたわけである。その後、人々はその箱の中身に何が残っているかを想像するようになった。

そんなに悪いものばかりが詰まっているわけでもなかろう。その箱の中にはきっと幸いが残っているに違いない。これが、どんな時でも人々が強くいられる理由である。未来を信じる原動力でもある。

アメリカ国民は苦しみの中にも未来に希望を持ちたいと願っている。その表れが、最近の株価の上昇だと考えると、なんとなくわかるような気もする。これを、世界各国の政府が輪転機を高速回転させて、紙幣を量産しているためだ、と言ってしまえば身もふたもなくなる。この考え方では現在の株価の上昇は、バブル崩壊に向けた助走ということになる。

閉じられたパンドラにはこの中に本当に希望は残っているのだろうか。そして、今度、そのパンドラの蓋を開けるのは、中国か？それともアメリカか？ その時、飛び出してくるものは災いか？ 希望か？

世界の流れを見通せる人はいない。そしてパンドラの箱の中に何が残っているかを正確に予言できる人はいない。ただ、箱の中には希望がある、この先には希望があると信じる力を人類は持っている。この信じる気持ちさえあれば、人類はパンドラの箱の中身などに関心を抱く必要はもはやない。希望という力を糧に生きていけるのが人間というものである。

米ナスダック最高値

経済再開期待で急回復

【ニューヨーク後藤達也】8日の米株式市場でナスダック総合株価指数が2月に付けた史上最高値を塗り替えた。新型コロナウイルスが流行して3月に急落したが、景気対策や経済活動再開への期待から4月以降、急回復した。ナスダックはIT(情報技術)企業の上場が多く、コロナの収束後も需要をひき付けるとの見方もマネーの流入を後押しした。

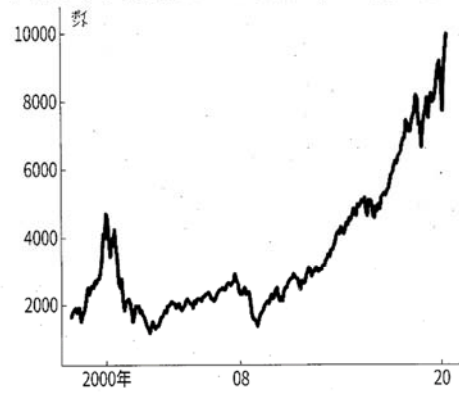
ITにマネー流入

ナスダック指数の8日(3月の安値からは45%上)の終値は先週末比110上昇。ネット株バブルといわれた2000年の高値9924だった。

ナスダックにはアップルやアマゾン・ドット・コムなど大手IT企業が上場している。革新的なビジネスや圧倒的なシェアで収益力を高め、株式市場の評価も年々高まってきた。オンライン会議システムのズーム・ビデオ・コミュニケーションズや電気自動車のテスラは今年に入り、株価が2倍以上になった。

4月以降の株高局面では特に人気が高まった。コロナの大流行による打

ナスダック指数はITバブル時の2倍に迫る



撃が比較的小さいとの見方が強まったためだ。ナスダックの主要企業に投資する投資信託「インベスコQQQ」には年明けから110億ドル(約1兆2千億円)の資金が流入した。日本でもネット証

券でズームやテスラの取引が活況だ。8日にはダウ工業株30種平均も大幅伸伸した。終値は461ドル高の2万7572ドルだった。先週末5日に公表された5月の雇用統計で失業率が低下し、景気回復への期待が強まっている。11月に米大統領選を控え、経済対策が続くとの見方も後押しして、株式を買った勢

いが強まっている。市場では「景気や株価の二番底を懸念していた投資家が慌てて買い戻している」(米ヘッジファンド)との指摘があった。ただ新型コロナウイルスの流行は米国でも拡大が続いている。経済再開や景気政策の期待が急速に高まっている分、急ピッチな株高を警戒する市場関係者も少なくない。

ナスダックの主な銘柄

銘柄名	年初来騰落率	時価総額(兆円)
アップル	14%	1.44
マイクロソフト	19%	1.43
アマゾン・ドット・コム	37%	1.26
アルファベット	8%	0.98
フェイスブック	13%	0.66
エヌビディア	50%	0.22
ネットフリックス	30%	0.18
ペイパル	44%	0.18
テスラ	127%	0.18
ズーム	208%	0.06